

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市西山児童館
2	指定管理者	特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター
3	指定期間	平成30年4月1日から令和5年3月31日まで
4	施設の利用状況	《利用者数》 15,387人 (前年度比 101.9%) 平成29年度 15,100人 平成28年度 15,294人 平成27年度 14,870人
		《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 27,389千円 (27,095千円) ( )は前年度決算額 ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)
		《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者会を実施。

## 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	リーフレットや児童館だよりの発行、ブログの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、毎月発行の児童クラブ通信、連絡帳、迎え時のやりとり、親子交流会等、様々な機会をとらえて子どもたちの日常の様子を伝え、保護者との情報共有に努めている。また、放課後子ども教室との連携もよく図られており、双方による放課後の外遊びの見守りや、放課後子ども教室主催行事の支援を行ったりしている。学校とも連携がよく図られており、日常的・定期的な情報交換を行っている。	19/19

### 三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み	評価すべき理由
加点評価	—

### 四 評価総括

《指定管理者（ 特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター ）による自己評価》
<p>指定管理2期目初年度となった30年度は、さらに地域に必要なとされる児童館を目指し、行事の見直しと充実、新事業の開発と実施に努めた1年となった。</p> <p><b>【児童健全育成】</b> 29年度に試験的に始めた小学生ボランティアグループ「ニシヤマセブン」は、児童クラブ在籍児童と利用率が高い自由来館児童10名に構成員が総入れ替わりとなり、本格的な活動を開始。毎月の自然体験活動と季節キャンプ引率、1年生お泊り会の運営、館行事、法人特別活動、地域のお祭り等、多くの場面で活躍を見せた。</p> <p><b>【子育て家庭支援】</b> 29年度に設立した鶴・燕・西子育て支援ネットワーク活動では、協力施設が増え、5施設での定期的な情報交換会議、2回目の乳幼児親子向け共催行事を実施。80組近い利用を頂くことができた。未就園児親子の体操クラブ「1, 2のたいそうキッズ」を開始し、自由参加ながら継続参加する親子が増えていくことは大変喜ばしかった。</p> <p><b>【地域交流推進】</b> 「健脳健骨運動」には毎回平均10名の高齢者の方が参加し、乳幼児親子との茶話会を通し、地域の世代間交流を促した。運動参加者に「にしやま食堂」のボランティア要請を行い、行事の支援とともに、小学生とのふれあいの時間を持っていた。</p> <p><b>【放課後児童健全育成】</b> 利用数と利用率増加に伴い、受入れ方法、タイムテーブルの見直しなど、児童の安全を図りつつ、上手に心と体の発散が図れる効果的な運営に努めた。法人の特色を活かした活動を今年度も提供することができた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>地域に根差した児童館を目指し、小中学校、町内会、地域諸団体等と連携しながら、事業の充実に取り組んでいる。</p> <p>児童健全育成事業では、野外での自然体験活動「地球探検隊」を毎月実施し、ハイキング、川遊び、キャンプ、雪山ハイク等、多様なプログラムを通して子どもたちの心と体を育てている。キャンプ活動への導入として、小学校1年生を対象とする児童館でのお泊り会を平成30年度から新たに行っている。4年生以上のボランティアグループ「ニシヤマセブン」のメンバーが1年生を支援するなど、異年齢での活動を通して社会性や自主性を育てる取り組みを行っている。また、孤食問題解決の活動としてスタートした「にしやま食堂」では、参加した小学生とボランティアの高齢者との世代間交流も生まれており、評価できる。</p> <p>子育て家庭支援事業では、乳幼児プログラムとして、年齢別の「はいはい」「よちよち」「とことこ」や活動内容別の「つくるもん」を行っているほか、新たに体を動かす活動として「1, 2のたいそうキッズ」を開設するなど、乳幼児親子が参加しやすい活動を提供している。また、「鶴・燕・西ネットワーク」で地域の子育て支援施設とつながり、年間6回の情報交換会や鶴ヶ谷市民センターを会場とした「子育て応援ひろば」の開催等を通して、地域の子育て支援に取り組んでいる。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進室